

[特集 I]

第3コース

「観るということー心理学的なものの方」

岡田 猛*・酒井亨子**・難波久美子**

1. コース設定の主旨と目的
2. 実施経過
3. レポート
4. まとめ

1. コース設定の主旨と目的

本コースでは、心理学研究をベースにした体験学習を行った。日常生活の様々なトピックを取り上げ、それらを実際にその場で体験することで、人間の「ものの見方」に認知的なバイアスが作用していると意識化させることを目指した。

第1日目では、「観る」という活動のうち、知覚に焦点をあて、知覚は視覚のみではなく五感も含めたものであることを示した。第2日目では、認識の主体である身体感覚や社会・文化的な文脈に影響を受けることに着目させた。それにより、認識とは、個人のなかで閉じた場面による変動がない「静的な活動」ではなく、認識の主体である「からだ」の感覚と対象が置かれている関係性によって構築される「動的な活動」であることを示した。第3日目では、「血液型性格診断」をテーマに、性格（パーソナリティ）という概念に関わるバイアスについて、多面的に考察した。

最終的に、レポート課題に取り組むことにより、受講生自らが関心あるテーマを探求しながら、自分自身のバイアスに自発的に気づくことができることを目標とした。（酒井・難波）

2. 実施経過

3日間の実践は、講師2名のチームティーチングによって行われた。全体の流れは表を参照されたい。

(1) 第1日目

コインを描いてみよう まず、1円玉、10円玉、100円玉の大きさを予想して、描くよう求めた。実際にコインを絵の上に重ねて、大きさのズレについて観察した。特に、他のコインと比べたとき、実物とスケッチのズレが大きく、実物よりもかなり小さく描かれていたことを確認した。

* 大学院教育発達科学研究科

** 大学院教育発達科学研究科博士課程

表1 第3コース授業内容

8月2日(金)		8月3日(土)		8月4日(日)	
内容	準備	内容	準備	内容	準備
10:00 ガイダンス 研究調査協力		◆部屋の五感の地図発表	OHC	復習とまとめ 第1部：血液型性格診断をどう思 うか ◇性格検査 (15分) ●ビデオ (40分) ＜集計＞	検査用紙、集計用紙 DVD
◇自己紹介		狂騒体験(身体感覚が異なるとど うなるか) ◇どんなことが大変か考える ◇体験(代表1人)を見て考える ▽解説と体験談紹介	OHC	◇血液型気になる度チェック! ◇血液型性格診断に対する自分の 考えを書く(15分)	チェック表 記録用紙(自分の考えを 書く)
◇コインを描いてみよう	OHC				
◇盲点の実験					
▽目の仕組	DVD				
●虫の視点・鳥の視点	DVD				
●「鳥の目で鳥瞰図を描く」 ▽宇宙考古学のはなし	DVD プリント				
◇部屋の地図	白紙				OHC
12:00 昼食					
13:30 ダイコン(60分)	問題用紙(清水、2000) OHC	文脈と背景に目を向ける ◇THE CATと12、13、14とABC ◇文章理解の実験 ◇ルーチンスの水がめ問題	OHC Seifridge (1965) Briner & Mintum (1965) Bransford & Johnson(1972) 問題用紙 (A.S.Luchins, 1942)	第2部：資料をどう読むか ◇資料の紹介、資料吟味(50分) (体録)	発表用メモ用紙 資料 ・科学的根拠 ・交通事故 ・古川論文(抄録) ・ABOFAN ・ABOWOLD など
◆ダイコンの側根について討論 ・答えと思うものと他対ないと思 うものの理由を出す ・正解	大根				
◇重さの誤認知実験	マッチ箱3つと10円玉			◇資料発表と質問(50分) ◇内容について ・読んでどう思ったか ・意見が変わったか(どの部分を 根拠に)	
◆皮膚2点域(実験)	つまようじ(人数分)、記 録用紙				
14:30 休憩					
14:45 ◆飲み物当てクイズ(味覚) ・嗅覚・視覚を遮断	(3グループにわけて全員) ジュース(8種類)・紙コッ プ、記録用紙(入っている 飲み物を書く)	文化に影響される認識 ・『大きな木』の朗読(15分) ◇感想を書く(10分)	OHC (Silverstein, S, 1964 "The Giving Tree" (ほんだきい ちろう(訳), 1982)) 白紙 (守屋, 1994; 2000)	第3部：血液型性格診断から考え る ▽歴史の話 ・時代の要請から発展、話題の中 心のうつりかわり、userの移り変わ り、心理学内の議論の移り変わり ▽情報の使い方 ・確証バイアス	年表 OHC
◆五感をつかって ・おかしを食べる ・感想を述べる	おかし(3種類) 参考資料(松田、2000)				
▽五感とその他の感覚	参考資料(松田、2000)				
◇宿題：部屋の音の地図・においの 地図	参考資料：「五感の地図」 (山下、2002)			全体のまとめ ▽心理学でいう観るということ 調査協力	提出方法など確認
15:45					

(◇：個人作業、◆：グループ作業、●：DVD教材、▽：解説(資料))

部屋の地図を描いてみよう 一人ずつA4の用紙に自分の部屋を描くことを求めた。

ダイコンの側根 ダイコンの側根がどのように生えているのか、6つのスケッチ（選択肢）から「正しい」と思われるもの一つ「ありえないもの」も一つ選択させた。次に、一人ずつ選択肢を選んだ理由について説明させた。実際にダイコンを呈示して、観察した（清水、2000）。

普段は食べ物としてしか捉えていないダイコンについて、〈側根の生え方〉という視点で予想を立て、その根拠について考え、観察を通して確かめることにより、新たな視点から身近なものを観ると発見があることを学んだ。

重さの誤認知実験 マッチ箱と重りを使って、重さの誤認知実験を体験した（詳細は、板倉1977）。この実験をとおして、〈論理的な判断〉と〈からだの感覚〉にズレが生ずることを確認した。

皮膚二点域実験 2人一組になって、爪楊枝2本を皮膚に直角かつ瞬間的に当てた。爪楊枝の2点間の距離を次第に長くしていき、初めて2点だと認識したときの距離を記録用紙に記録した。この実験により、同じ皮膚でも体の部位による二点域の違いがあることがわかった。

さらに、玄人の旋盤工が指先だけの感覚で、精密な測定器でも判別しがたい、ミクロン単位の識別が可能であることを説明した。

飲み物当てクイズ（味覚の実験）全体を3グループに分けて実施した。目を閉じて鼻をつまみ、飲み物を飲んで、何を飲んだのかを当てていった（Marilyn, B. 1976）。用意した飲み物は冷やした紅茶、コーヒー、水とジュース5種類であった。

五感 受講生は、食感や味の異なる3種類のせんべいを、視覚（色・形）聴覚（音）・嗅覚（におい）・触覚（舌触り）・味覚のうち〈1つの感覚に集中して食べること〉と〈全ての感覚を使って食べること〉を比較した。

宿題 視覚だけでなく聴覚・嗅覚・触覚といった五感を使って、部屋の五感地図を作製していただくことであった。資料（山下、2002）を参考資料として配付した。

(2) 第2日目

部屋の五感の地図発表 課題の「部屋の五感の地図」と前日の「部屋の地図」を描いたときと比較して、どういう発見があったかについて発表させた。

妊婦体験—からだに影響される認識 体の状態が変化したときに、日常生活における動作にどのような変化が生ずるのか、「妊婦」を例に取り上げた。まず、受講生は妊婦がどのような場面で大変だと感じるのかを想像し、記録用紙にまとめた。受講生のうち一名の希望者が妊婦体験ジャケットを装着し、様々な動作をしながら体の感覚について語った。

その後、知人の妊娠体験談や骨折をしたときのエピソードを例に、身体感覚の変化が日常生活に対する見方・考え方の変化を生じさせることについて説明した。

文脈と背景に影響される認識 文脈中の文字の知覚について、全く同じ形態の文字が、その文字の周りにある別の文字の影響を受けて、異なる文字として知覚されるという体験をした。次に、文章を理解する場面をとりあげ、正しく書かれている文章でも、文章の書かれている背景に関する情報が不足していると、正しく読みとろうとしても理解ができない場合があることを体験した。最後に、ルーチンスの水がめ問題（A.S. Luchins, 1942）を用いて、同じタイプの問題解決を同じ方略

で解決できることがわかると「構え」ができてしまい、より効率的な解法を知っているにもかかわらず、解法として用いるに気づかなくなることがあるということを示した。人間は対象そのものを単独で認識しているというよりもむしろ、認識の過程において対象の背景となっている文脈の影響を受けて、対象を認識し、理解しているということ学んだ。

文化に影響される認識 まず、「大きな木」の朗読を聞き、感想を書くよう求めた。次に感想文をもとに、物語の読者は物語の登場人物の気持ちについて何を手がかりにしたのか、登場人物の行為をどう評価したのか、「りんごの木」を誰にみたてたのか、という問いについて検討した。さらに、守屋（1994, 2000）による研究成果を呈示し、諸外国のデータとの比較をとおして、文化的な視点から考察を行った。（酒井）

(3) 第3日目：身近にあるバイアスを考えるー血液型性格診断ー

2日間で、様々なバイアスの中で生活していることを知った。そこで3日目は、実際の生活の中にあるバイアスを例にとり、自分の中の考えを明確にした上で、様々な視点からそのバイアスを検討した。取り上げた例は「血液型性格診断」である。この「血液型性格診断」は、今日では日常会話に用いられるほど浸透しており、受講者にとっても身近である。また、受講者は青年期にあり、自分の性格に興味を持ちやすい時期であると思われる。さらに、「血液型性格診断」は日本の心理学研究に端を発しているが、その後様々な議論を引き起こしてきたため、資料が豊富である。以上のことから、受講者にとって「血液型性格診断」が身近に興味を持って取り組める話題であり、多様な視点から検討するための教材として適切であると考えた。

第3日目は3部構成とした。以下に概要を述べる。

第1部 「血液型性格診断」を扱ったテレビ番組を見たり、同じ授業を受けている高校生の意見と比較したりすることで「血液型性格診断」に対する自分の考えを明確にした。また、どちらかという信じているグループと、どちらかという信じていないグループに分け、その理由について話し合った。さらに、一般的に出回っている「血液型性格診断」をブラインドで行った。その結果、必ずしも結果が自分の血液型と一致しているわけではないことや、印象のよくない血液型が存在することなどが確認された。この結果をもとにさらに意見を話し合った。

第2部 書籍・インターネット等から幅広い「血液型性格診断」や「血液型」に関する材料を呈示し、異なる視点からの議論を吟味した。その際、自分の考え方と対照させながら資料を検討するよう指示した。次にそれぞれが検討した資料内容を発表し、考え方に影響を受けた点などを発表した。その上で、情報源が同じでも、異なる考え方の材料になることを指摘した。

第3部 さらに異なる視点として、今日にいたるまでの歴史的経緯（血液型の発見、日本心理学会等での議論、高度経済成長期での復活、今日の心理学内での議論と、一般の話題）を概説し、同じ「血液型性格診断」であっても、様々な見方が可能であることを指摘し、まとめをした。

（難波）

3. レポート

(1) 課題タイトル

「身の回りのことで関心のあることについて思うこと」

(2) レポートの構成について

レポート作成の手順を次の様に指示した。まず、関心のあるテーマを選び、テーマに関する「自分の見方・考え方」を書き留めること。次に、そのテーマについて、インターネット、新聞、書籍、インタビューなど様々な方法を用いて情報収集し、内容をまとめること。最後に、そのテーマについて、情報に接した前後で「自分自身の見方・考え方」にどのような変化が起きたのか、どういった点に今まで気づいていなかったのか、それについてどう考えるかを中心に考えを述べることであった。

(3) レポートの評価と批評

「これまでは、十分な情報を得ていないにも関わらず価値判断を下したり、イメージを形成したりしていたことに、課題に取り組む過程で気づいた」という感想が、ほとんどのレポートで述べられていた。これにより、自分自身のバイアスに自発的に気づくことができるという本コースの目標は十分達成されたといえよう。 (酒井)

4. まとめ

3日間の集中講義をとおして、心理学的な「ものの見方・考え方」の特徴、特に人間の認識活動におけるバイアスを取り上げた。心理学研究をベースにした体験学習によって、彼らに驚きや発見を与えることができた。さらに、実際の心理学の学問分野で扱われているテーマが、高校生が素朴に描いている心理学のイメージよりも多岐にわたっていることを伝えることができた。「日常生活におけるバイアスへの気づき」をテーマにしたコースの授業は、彼らの今後の日常生活のみならず、進路選択にも十分役立てることができるであろう実り多き実践であった。

(酒井・難波・岡田)

引用・参考文献

板倉聖宣 1977 科学的とはどういうことかーいたずら博士の科学教室 仮説社

Luchins, A.S. 1942 Mechanization in problem-solving. *Psychological Monographs*, 54, 1-95.

松田隆夫 2000 知覚心理学の基礎 培風館

守屋慶子 1994 子どもとファンタジーー絵本による子どもの「自己」の発見 新曜社

守屋慶子 2000 知識から理解へー新しい「学び」と授業のために 新曜社

Marilyn, B. 1976 *The Book of Think*. The Yolla Bolly Press. (左京久代 (訳) 1985 考える練習をしよう 晶文社)

清水龍郎 2000 ダイコンの観察 (楽しい授業223) 仮説社 Pp.17-26.

Silverstein, S. 1964 *The Giving Tree*. Harper & Row Publishers, New York. (ほんだきいろう (訳) 1982 大きな木 篠崎書店)

山下柚実 2002 五感生活術－眠った「私」を呼び覚ます（文春新書） 中央公論新社